

総務常任委員会
所管事務調査報告書

選挙投票率の向上について

令和2年3月

- 1 調査事件名
選挙投票率の向上について

- 2 調査の目的
更なる投票率の向上に向け、投票所のあり方や投票への啓発活動などを研究する。

- 3 調査の経過
 - (1) 委員会・協議会開催日
 - 令和元年 5月31日(金) 所管事務調査事項の決定
 - 令和元年 7月 2日(火) 委員会 関係部局への事務調査
・委員間討議
 - 令和元年 9月 5日(木) 委員協議
 - 令和元年 9月17日(火) 委員会 関係部局への事務調査
・委員間討議
 - 令和元年12月17日(火) 委員会 委員間討議
 - 令和2年 1月 9日(木) 所管事務調査報告書に向けて協議
 - 令和2年 2月19日(水) 所管事務調査報告書に向けて協議
 - 令和2年 3月 9日(月) 委員会 調査報告書決定

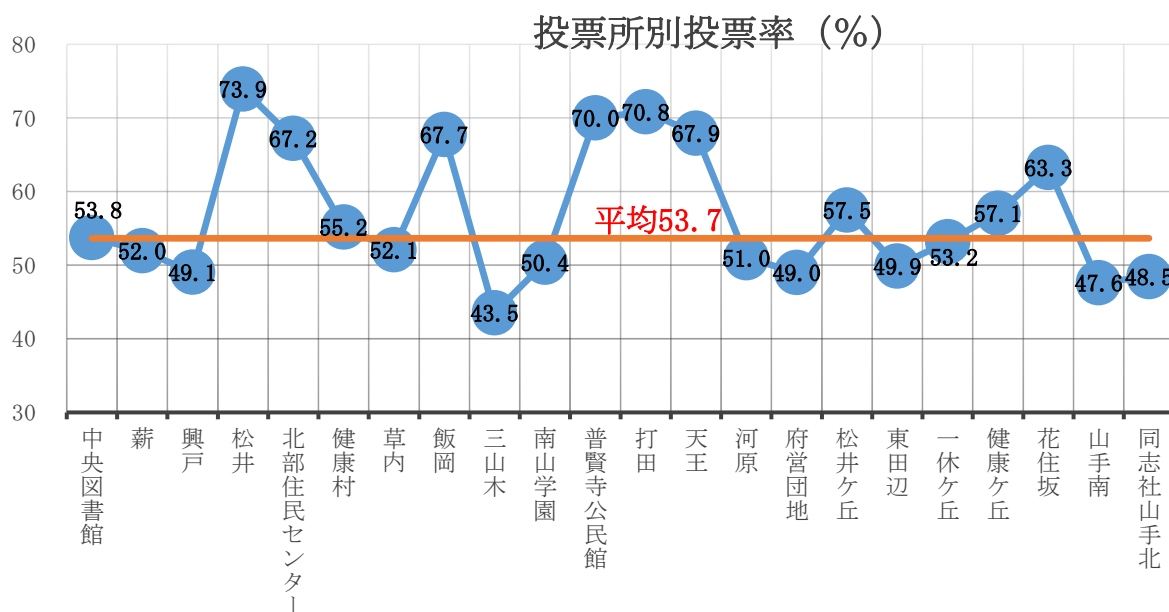
- 4 調査・研究結果
 - (1) 部局からの資料
 - ・京田辺市選挙管理委員会出前講座資料
 - ・京田辺市選挙管理委員会18歳有権者選挙啓発冊子
 - ・平成31年4月21日執行京田辺市議会議員一般選挙
投票所別年代別投票率
 - ・選挙啓発事業(出前授業)の受講者アンケート
 - (2) 先進自治体へのヒアリング調査
全自治体共通の課題であるため、机上において他市の状況を確認した。
 - (3) 出前授業の調査研究
授業にて活用している資料に基づき説明を受けた。

5 資料からの分析

※この項のグラフ等のデータは、平成31年4月執行京田辺市議会議員選挙のものであり、投票率については、小数点第二位を四捨五入した数値を使用している。

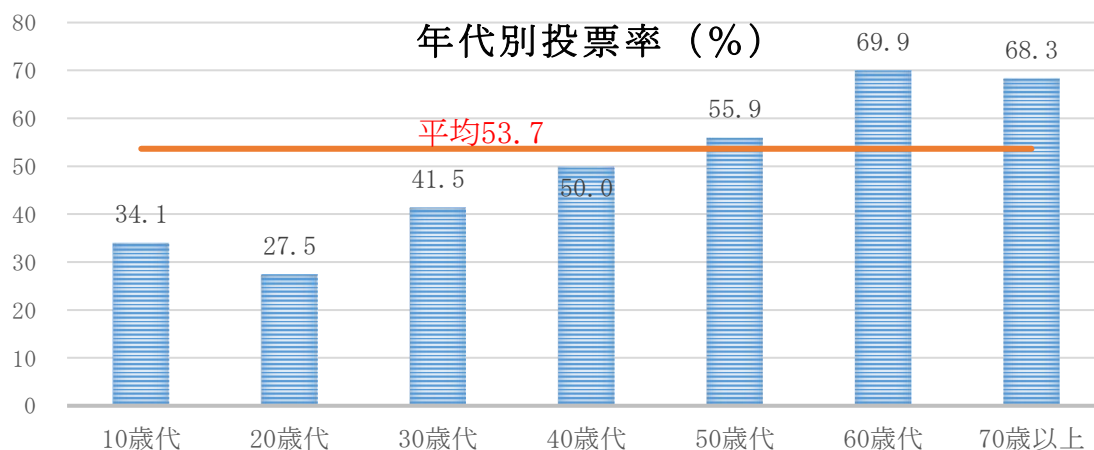
(1) 投票所別投票率

- ・投票率が低い投票所は、
興戸・三山木・府営団地・東田辺・山手南・同志社山手北
- ・投票率が高い投票所は、
松井・北部住民センター・飯岡・普賢寺・打田・天王・花住坂



(2) 年代別投票率

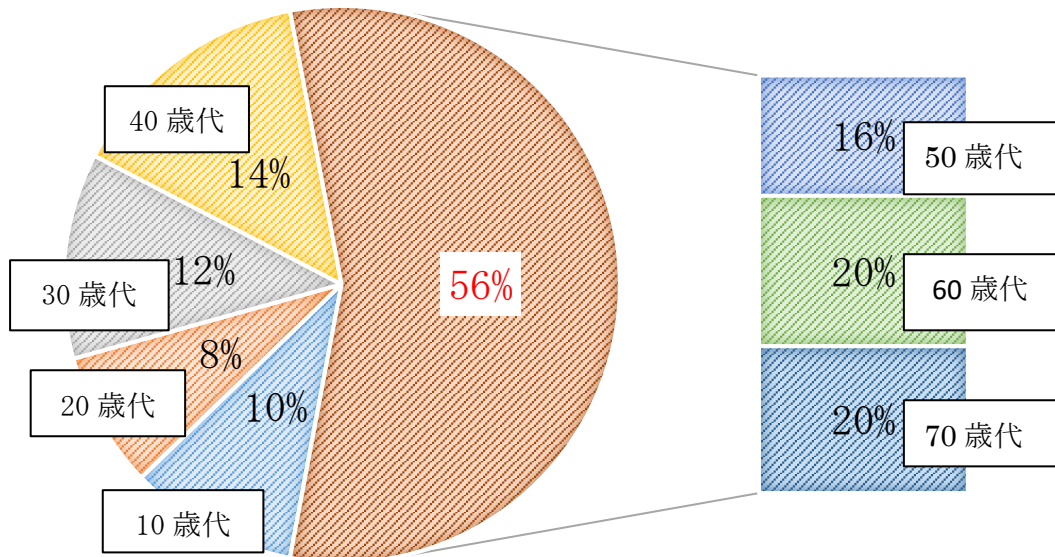
50歳代以上は高投票率となっているが、若年層は平均を下回る低投票率である。(特に20歳代は低投票率であった。)



(3) 投票者数に占める年代別の割合

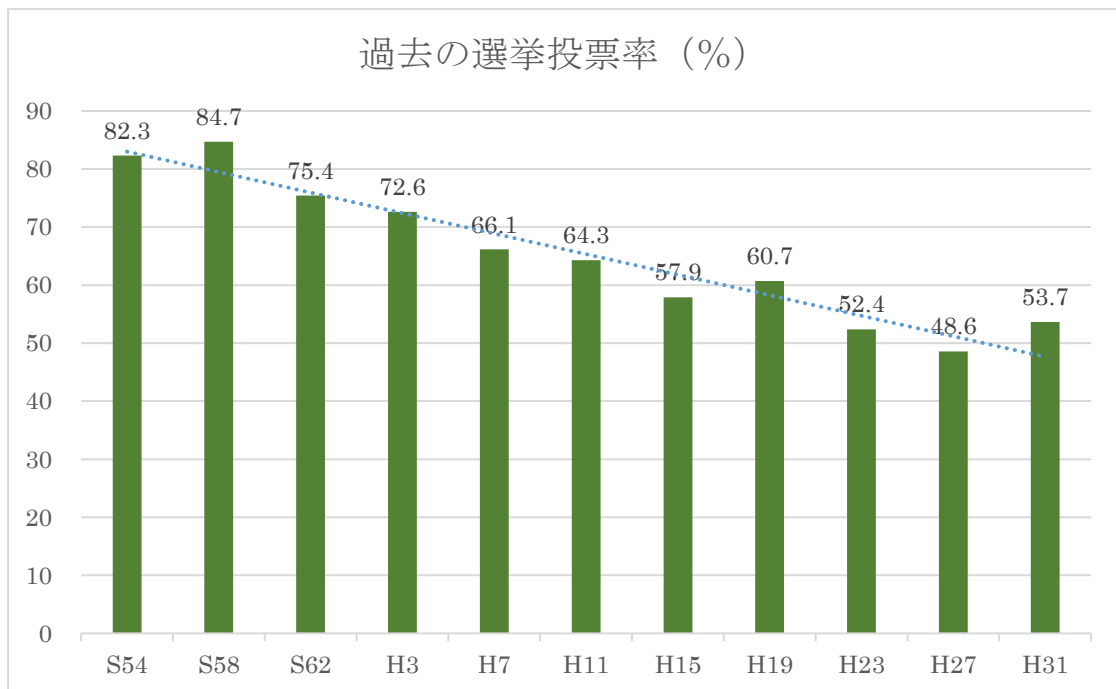
50歳代～70歳代の有権者の意向が多く反映された選挙であった。

投票者数に占める年代別の割合



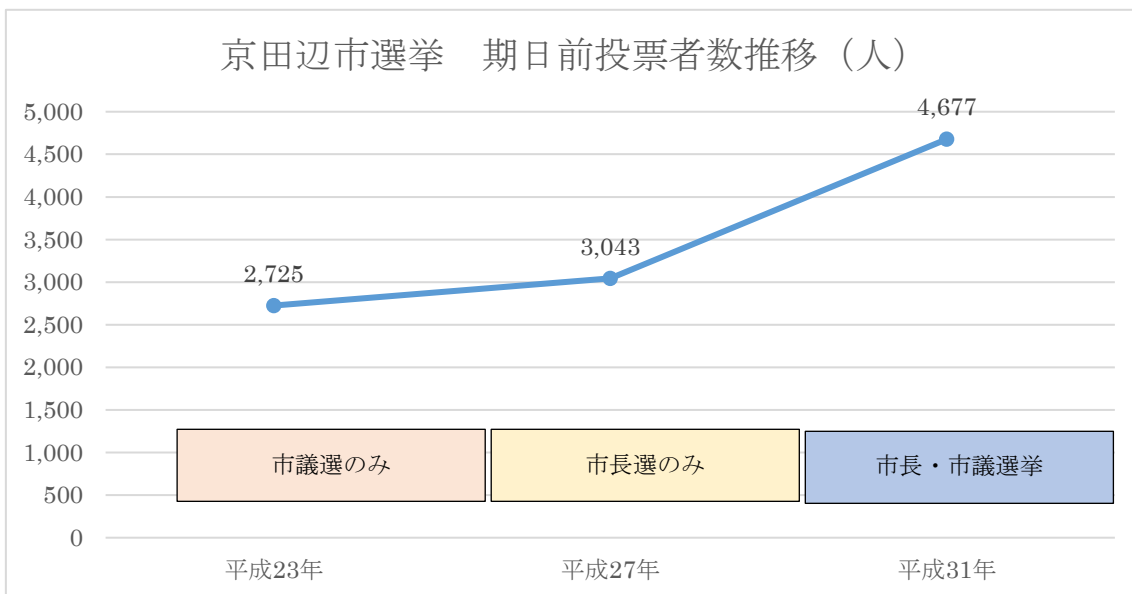
(4) 過去の投票率推移

年々減少傾向にあり憂慮すべき現状である



6 期日前投票の推移（過去3回）

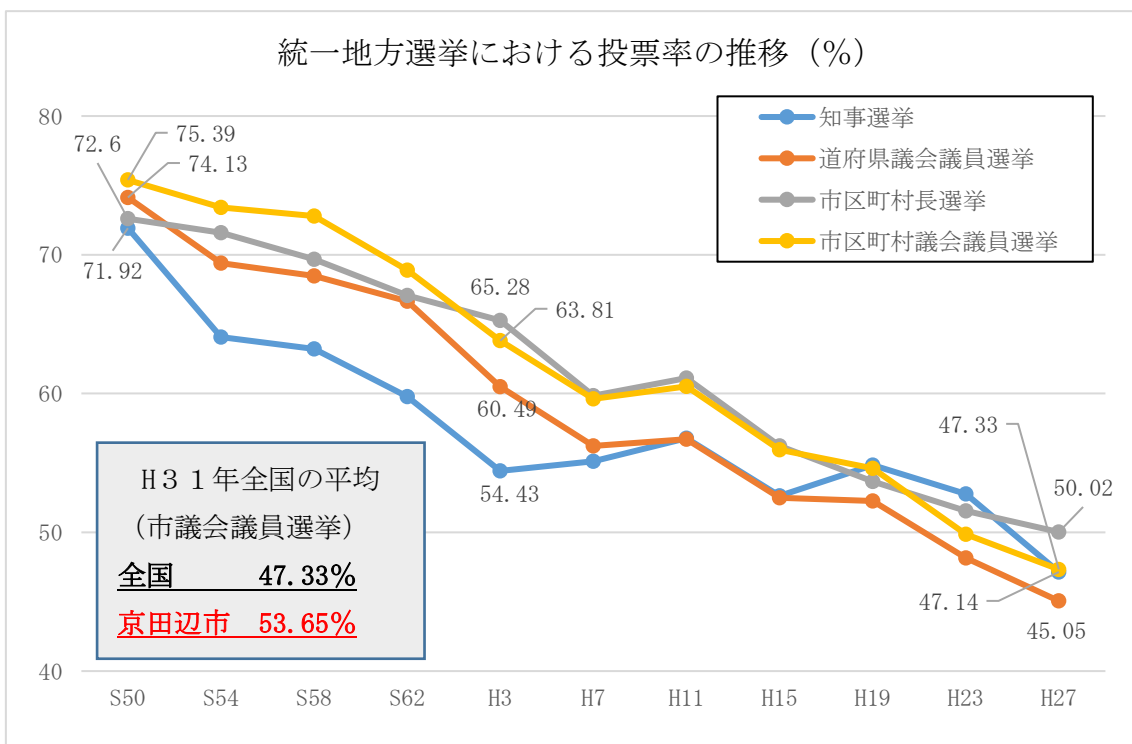
過去3回の選挙において、期日前投票者数は伸びている。



7 全国の投票率（参考資料）

全国的に投票率は右肩下がりとなっており、大きな問題である。

平成31年、本市は全国投票率よりも上回ったが、全国的に低下傾向にある。



8 現状把握のまとめ

- 他市と比べて投票率は高いが、このままでよいとは言えない。
- 若年層の声を反映する取り組みができていないのか不明。
- 高齢者の投票率は高い。
- 投票所の地域間格差については更なる分析が必要。
- 20歳代～30歳代の投票率向上の施策検討が必要。
- 期日前投票所を増設した場合、どの程度増加するか調査が必要。

(仮説の設定)

1. そもそも30歳代までは、政治に関心がない。
2. 20歳代・30歳代は学業や就業の関係で投票日に空き時間がない。
3. 10歳代で学んだこと（出前事業等）は忘れてしまった。
4. 学生は仮住まいの地であるため関心がない。
5. 投票箇所(場所)の環境に問題があるのでは。
(駐車場・駐輪場)(もっと近くにあるのに…)
6. 当該地域から出馬する議員がないから？ (地域の盛り上がり)
7. 日常生活における問題点がない地域？ (環境が良好な地域)
8. 働く世代が多く住みやすい地域である。

9 提言

今回、本市における選挙（市長選・市議選）は、ともに新人議員が立候補し市民の関心は高く、全国と比較し高い投票率となったが、有権者の半数が棄権する中、特に若年層の棄権が多い。そのため今後も投票率の向上に向けた取り組みを進めていく必要がある。そのうえで、本委員会として下記のとおり提言する。

<委員会としての提言>

- ① 選挙の重要性など、有権者の意識改革を促す取り組みを進められたい。
- ② 出前授業等主権者教育の地道な取り組みを継続されたい。
- ③ 期日前投票所の増設や投票場所の在り方など現行枠に固執することなく、有権者の声を反映する取り組みを進められたい。
- ④ 今後建設予定の新たな複合施設（田辺中央北側）等においては、期日前および当日の投票所となるよう設計検討されたい。

10 総括

今回私たち総務常任委員会として、昨今の投票率の低迷に憂慮している中、地域別・年代別における問題点の抽出を行うことから取り組んできた。

また他市における先進的な取り組みを調査することで、本市の特徴的な課題を見出そうとしてきたが、本問題は全国的な課題であり特効薬がないことが判明した。

その上で、今回の調査の結果から、10歳代の投票率は20歳代の投票率を若干上回っており、関係部署における出前講座の成果であると推察するが、今後も継続した取り組みを提言しておくとともに、子どもと一緒に投票所に行くなど、投票行為の見せる化による、家庭における主権者教育の必要性について、関係する方々の実践活動をお願いしたい。

一方20歳を超えると投票率が減少する要因としては、現状の社会において、サービス産業への就職が多くを占めることから、カレンダーに基づく会社等の休日とはなっておらず、期日前投票所の増設や、駅近辺での投票所開設など有権者目線に立った投票所の環境づくりが必要ではないかと考えるが、他市においては、期日前投票所増設にもかかわらず、投票率が増加しない事象もあり、期日前投票箇所を設置にあたっては、場所設定とあわせ、開設時間など、さらに踏み込んだ調査研究をしていく必要がある。

また、今後さらに増加する高齢者の権利行使をどのように取り組んでいくのかについては、高齢化の進展に合わせ検討する必要があり、その対処方法の一つとして投票区域外投票等の在り方なども含め研究していくことが課題であると認識した。

私たち議員は今後もそれぞれの有権者の声を吸い上げ、政治に関心を持っていただき、一人でも多くの有権者に投票していただく地道な取り組みも任務の一つであることを再認識し、引き続き調査研究していくことを申し合わせた。

最後に私たちは多くの市民の信託の下、厳しい視線を常に感じながら緊張感をもって市政に携わっていくことで、政治をより身近に感じていただけるものであることを再確認し本調査研究のまとめとする。